

浜の活力再生プラン
令和6～10年度
(第3期)

1 地域水産業再生委員会

組織名	鹿部地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長 若山 唯敏 (鹿部漁業協同組合 代表理事組合長)

再生委員会の 構成員	鹿部漁業協同組合・鹿部町・鹿部ホタテ養殖漁業部会・鹿部刺網漁業部会・鹿部コンブ養殖漁業部会・鹿部コンブ採取部会・鹿部タコ箱漁業部会・鹿部釣漁業部会・鹿部ナマコ桁網部会・鹿部エビかご漁業部会・鹿部ツブかご漁業部会・小定置網漁業部会・うに中間育成漁業部会・鹿部ウニたも採り漁業部会
オブザーバー	北海道 (渡島総合振興局)・渡島北部地区水産技術普及指導所・北海道漁業協同組合連合会・北海道信用漁業協同組合連合会・北海道漁業共済組合道南支所

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	<p>北海道茅部郡鹿部町鹿部地区 (字大岩～字本別迄)</p> <p>組合員数 302名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホタテ養殖漁業 (61) ・刺網漁業 (カレイ・スケトウダラ等) (66) ・コンブ養殖漁業 (19) ・採介藻漁業 (140) ・桁網漁業 (ナマコ等) (27) ・定置網漁業 (8) ・タコ漁業 (73) <p>※兼業含む</p> <p style="text-align: right;">(令和5年4月1日現在)</p>
-----------------------	--

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>当再生委員会の地域では、302名がホタテ養殖漁業、刺網漁業 (カレイ・スケトウダラ等)、コンブ養殖漁業、採介藻漁業、桁網漁業 (ナマコ等)、定置網漁業などを営んでおり、その中でも、当組合の主幹漁業となっているホタテ養殖漁業は61名が着業し、組合水揚高の43%を占めている。しかしながら近年外来種のヨーロッパザラボヤの大量付着による生育阻害や貝の脱落が課題となっており、ここ数年は稚貝の生育不良や成員の斃死が問題となっている。また、刺網漁業 (カレイ・スケトウダラ等) が水揚高の10%、コンブ (コンブ養殖漁業・採介藻漁業) が18%を占めており、主要な漁業となっている。しかし、前浜の底質の変化等が原因で天然コンブの資源量の減少が深刻な問題となっている。</p> <p>当地区の漁業環境は、長く続いた燃油価格や資材の高止まりの影響などにより漁業経営が疲弊している。また、海水温上昇等の漁場環境変化などによる、スケトウダラの回遊時期の変化や定</p>
--

置網漁業などで漁獲される魚種の変化が起こるとともに、来遊する魚類の資源量も減少し加工業者も流通マーケット、加工技術及び設備に対応できず、魚価低迷への一因となっている。

さらに、組合員の高齢化も進み、後継者の確保も重要な課題となっており、このような状況下で、漁業者の経営安定を図る為には、官民一体となり、燃油節減対策などのコスト削減に努めるとともに、今後も資源管理型漁業や地産地消対策等の付加価値向上の取り組みを推進する必要がある。

(2) その他の関連する現状等

当再生委員会の地域は、昭和58年12月に村から町になり、町制施行時は人口が5,000人以上だったものが、令和5年では、3,600人に減少しており、少子高齢化に伴う若年層を中心とする人口減少や財政負担の増加など、当地域をとりまく環境は厳しい状況となっている。

一方で、温泉や水産物といった“町の資源”があり、近年は高速道路など町内外の交通網の整備が進むなど新たな動きも見られる。また平成28年に『道の駅しかべ間欠泉公園』がオープンし、多数の来場者が訪れメディアにも掲載され町のPRとなっている。これらを活用して、雇用の拡大や起業、定住を促進し、地域の活力を維持・向上していくことが必要である。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

地域の現状を踏まえ、次の対策を実施する。

1. 漁業収入向上のための取組

【衛生管理・付加価値向上】

- 衛生品質管理マニュアルの策定および衛生品質管理講習会の開催による市場関係者の衛生意識の向上を図る
- 出荷量に応じた適正な衛生管理・鮮度保持が可能なプラスチックコンテナの導入を図る
- 地産地消の推進、ブランド化や高鮮度出荷等の実施を行う
- 活出荷や活〆出荷の推進による付加価値向上を図る
- 販売体制の充実などによる、地域水産物の信頼性や品質の向上、安定供給の推進を図る
- 更なる漁業所得向上を図るため、老朽化による既存の市場を新たに新設し、市場と事務所が併設した施設を整備し、漁業収益力アップに繋がる水産物の流通機能を強化し、加えて水産物の鮮度維持を目的に天蓋施設を整備し衛生管理強化を図る。
- コンブの間引きや浮上作業の知見を収集したマニュアルを作成し、コンブの品質向上および増産に努める

【生産性向上対策】

- 噴火湾では、ホタテ貝へい死は約5年毎に発生していたが、ここ数年は毎年発生し漁家の生産量も過去最低を記録し漁家経営が危機的状況にある。その対策が急務とされており、そのため当該漁業協同組合も加入している噴火湾ホタテ生産振興協議会(噴火湾全域の漁業協同組合が加入している)が計画する漁場環境保全対策の実施とへい死対策として漁場観測ブイを全域に設置し、噴火湾湾口からの影響や湾内の海洋環境の変化を観測し、これにより得られた情報を漁業者に提供し、そのデータを元に漁業者が漁場環境保全を図り、より高度な養殖管理を行い、へい死率を低減し、安定的な生産を図り漁家経営の安定化を図る。

【ガラボヤ対策等】

- 噴火湾ホタテ生産振興協議会が実施する漁場環境保全対策の実施を図る
- 有害生物漁業被害防止総合対策事業の実施を図る

- 駆除対策に必要な機器等の導入及び処理施設の整備を行う
- ホタテ稚貝の生育不良や成貝の斃死の原因を関係機関と協力し、原因究明に努め、生産量の回復を目指す。

【水産資源対策】

- ナマコ種苗生産、アワビ種苗放流による資源増大と採捕禁止区域の設定による資源の維持増大と種苗放流技術の向上を図る
- 放流試験場所での稚ナマコの追跡・生存調査並びに保育礁を利用した大型種苗までの追跡調査を行い中間育成技術の向上を図る為のナマコ中間育成漁場調査の実施を行う
- 岩盤清掃、転石、栄養塩供給に加え、囲い礁・魚礁やビバリーバッグの設置によるコンブ藻場造成の取組みと母藻群落の造成を図り、コンブ資源の早期回復と維持増大を図る
- マツカワの種苗放流による資源増大を図る
- ナマコ・コンブ種苗生産施設の整備による種苗の安定生産と効率化を図る
- 岩盤清掃、転石、栄養塩供給に加え、囲い礁・魚礁の設置による水産資源の早期回復を目指す
- コンブ漁場モニタリングを行い、必要に応じて雑海藻駆除や腐植酸鉄等の供給及び囲い礁・魚礁や立て縄礁の設置によりコンブ資源の維持増大を図る

2. 漁業コスト削減のための取組

【漁業経営安定対策】

- 漁獲共済・積立ぷらす・漁業セーフティネット構築事業の加入促進を図る
- 協業化・作業の共同化・燃油費削減等のコストの削減を図る
- 海水温観測ブイの整備による無駄な出漁の抑制および洗浄作業の効率化を図る
- 港内・航路の浚渫による効率的な操業体制の構築に努める

3 漁村の活性化のための取組

【漁業就業者対策】

- 町内居住者の漁業後継者に対し、就学助成金を交付し、漁業後継者としての定着促進を図る
- 漁業後継者対策の充実を図る
- 漁業のPRや就業体験研修の開催により、新規就業者の確保に努める

(3) 資源管理に係る取組

- ・ 操業隻数、期間等の規制遵守による資源へ与える負荷の抑制
(海洋生物資源の保存及び管理に関する法律、北海道海面漁業調整規則)
- ・ 資源管理計画に基づく自主的資源管理措置の実施による資源保護と漁業経費の削減
(北海道資源管理協議会)
- ・ 持続的養殖生産確保法に基づく漁場改善計画の適正な推進による養殖漁場環境の保全
(北海道)

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（令和6年度）所得向上率（基準年比）12.4%

漁業収入向上のための取組	<p>・漁協と全漁業者は、鹿部漁港における衛生管理強化のため、鹿部町水産物衛生管理推進委員会と連携し、鹿部漁港市場衛生品質管理マニュアルを定め、作業動線の輻輳化を改善することで水産物の細菌リスクの低減を図るとともに、市場関係者の衛生意識の向上を図るため、衛生品質管理講習会を開催する。また、市場施設内の床面や排水溝などグレーチング等の改修整備を検討し、加えて市場施設の老朽化が年々著しく増しているため、市場新設計画を作成する。</p> <p>・ホタテ養殖漁業者と漁協は、中国など海外からの需要の高まりや国内消費者の安全意識の高まり等を踏まえ、漁獲物への細菌混入リスクの低減に努めるため、ホタテ貝の水揚げに際し殺菌海水を使用した貝殻洗浄に努めるとともに、運搬時には木柵に代えて、洗浄が容易で衛生面で優れているプラスチックコンテナを順次導入する。このことによって、品質、鮮度保持、衛生管理が向上し、東南アジア向け輸出の拡大や付加価値向上を図る。加えて、徹底した選別による出荷サイズの統一にも努める。</p> <p>また、ヨーロッパザラボヤの異常付着による養殖ホタテ貝の生育阻害や脱落を減少させるため、必要な機器を順次導入し可能な限り駆除に努めるとともに、近年問題となっている稚貝の育成不良、成貝の斃死の原因究明を関係機関と協力して進め、生産量の回復を目指す。</p> <p>さらに、鹿部町は、鹿部町漁業系廃棄物リサイクル施設において行っている廃棄物の適正な処理と肥料の製造について、ヨーロッパザラボヤの大量付着により施設での処理が間に合わない状況となっていることから、ザラボヤの処理量を増大できるよう、今後の施設の拡張整備などについて検討する。</p> <p>・漁協は地産地消やブランド化、漁獲物の高鮮度出荷のため、地元道の駅の浜のかあさん食堂での料理の提供やイベントでの地元食材を使った料理の無料配布や鮮魚販売を実施する。</p> <p>・刺網漁業、定置網漁業者と漁協は、北海道栽培漁業振興公社や関係漁業者等で構成される「えりも以西栽培漁業推進協議会」の協力を得て、マツカワ種苗25,000尾を放流し、資源の増大を図る。加えて、仲買等流通業者や加工業者等からの要請に応えるためマツカワ、サケ、マグロ、ブリ、スケトウダラなどを対象に、プラスチックコンテナと殺菌海水氷を使用した、出荷までの低温管理（5℃以下）の徹底と衛生的な流通体制の構築を検討する。</p> <p>また漁協は、消費地販売店等からの需要に応じ、活〆販売拡大のため、関係漁業者への活〆講習会を開催するほか、上記取組みなどの推進のため、漁業者へ氷を安定供給できるよう、使用する氷の種類や必要量などの調査を行い、必要に応じて製氷機の整備を検討する。関係漁業者は、漁船への氷の供</p>
--------------	--

	<p>給方法などを統一し、鮮度の均一化に取り組むとともに、タコ漁業者を含め、消費地販売店等からの需要に応じ、活魚水槽を活用した活保管や消費地のニーズに合わせた出荷調整等の販売体制の充実させることで、地域水産物の信頼性や品質の向上、安定供給の推進を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採介藻漁業者、刺網漁業、桁網漁業者と漁協は、鹿部町とともに、底質が砂地のために海藻の繁茂に適さない海域において、コンブ、ソイ類、アイナメなどの水産資源の生産力の向上や保護などを目的に囲い礁を設置し、水産資源の維持増大に努め、水産技術普及指導所等の協力を得て、囲い礁の最適構造や設置場所の適地選定などについて検討し水産資源の早期回復を目指す。また、採介藻漁業者は、漁協及び鹿部町と連携し、コンブ漁場の繁茂状況や環境状況などについてモニタリングを行い、その結果を基に、必要に応じて岩盤清掃による雑海藻駆除や転石、鉄鋼スラグによる腐植酸鉄等の供給及び囲い礁・漁礁や立て縄礁の設置により、コンブ資源の増大に努める。 ・採介藻漁業、桁網漁業者と漁協は、鹿部町、北海道庁、水産技術普及指導所、水産試験場等の協力を得て、ナマコ種苗生産技術の取得に努めナマコの種苗生産と放流を実施するとともに、放流区域の一部をナマコの産卵育成場として、一定期間採捕禁止区域に設定することで資源の維持増大を図る。また、ナマコ種苗を中間育成場に放流し、追跡調査を行うことで成長や生残、拡散状況などを把握し、放流効果の検証を行い、放流技術と中間育成技術の向上に努める。そして、ナマコ・コンブ種苗の安定生産と効率化の向上を図る為、新たな種苗生産施設の整備の計画策定を行う。 ・コンブ養殖漁業者は、漁協および水産技術普及指導所と連携し、沖出し後のコンブ種苗が適正に成長できるよう、これまで個々の経験により取り組んできた間引きや浮上作業について、共同で知見を収集し、マニュアル化するとともに、対策を徹底することで、コンブの品質向上および増産に取り組む。 ・当該漁業協同組合も加入している噴火湾ホタテ生産振興協議会が計画する漁場環境保全対策の実施とへい死対策として漁場観測ブイを全域に設置し、噴火湾湾口からの影響や湾内の海洋環境の変化を観測し、これにより得られた情報を漁業者に提供する。ホタテ養殖漁業者はそのデータを元に漁業者が漁場環境保全を図り、より高度な養殖管理を行い、へい死率を低減させるとともに、漁協と連携し、生産量と漁家経営の安定化を図るための計画を立案する。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、漁獲共済・積立ぶらす・漁業セーフティネット構築事業の周知により加入促進を図る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、減速航行の徹底や定期的な船底清掃及び舵・プロペラなどを洗淨・研磨し、付着生物防止処理を実施することにより燃油消費量の削減を図る。 ・全漁業者は、必要に応じ省エネ機器等導入推進事業を活用し、省エネ型コンブ乾燥機及び船内機・船外機の導入により、燃油使用量の削減を図る。 ・コンブ養殖漁業、ホタテ養殖漁業は、出荷作業時における共同化及び協業化を推進し、漁業経費の削減に努める。 ・漁協及び全漁業者は、鹿部町の協力を受け海水温観測ブイの設置整備を行い、海水温・潮の流向・流速・波高データの配信を受け、事前に操業の判断が可能となり、無駄な出漁を抑制し、船上作業の効率化により、漁業経費の削減を図る。 ・関係漁業者及び漁協は、各漁港が航路などへの土砂堆積や波浪による作業の非効率化や港内の静穏性が保たれないことによる漁船の損傷等を防ぐため、港内・航路の浚渫を北海道へ要望するとともに、機能保全が図られた漁港を有効活用し、漁業者自らも潮位変化に影響されない効率的な操業体制を組むことで燃油の消費を抑え経費の節減に努める。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町内居住者の漁業後継者で、北海道立漁業研修所に入所が認められた者に対し、鹿部町より就学助成金を交付し、漁業後継者としての定着促進を図る。 また、漁業後継者対策の充実を図り漁業後継者の加入促進を図る。 ・町のHPやSNS等を活用して漁業をPRするとともに、就業体験研修を開催し、新規就業者の確保に努める。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>有害生物漁業被害防止総合対策事業（国） 北海道地域づくり総合交付金（道） 漁業経営セーフティネット構築事業（国） 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国） 競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） 水産基盤整備事業（国） 鹿部町沿岸漁業振興対策事業（町）</p>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>・漁協と全漁業者は、鹿部漁港における衛生管理の強化のため、鹿部町水産物衛生管理推進委員会と連携し、鹿部漁港市場衛生品質管理マニュアルを定め作業動線の輻輳化を排除することで水産物の細菌リスクの低減を図るとともに、市場関係者の衛生意識の向上を図るため、衛生品質管理講習会を開催する。また、市場施設内の床面や排水溝などグレーチング等の改修整備を検討し、加えて市場施設の老朽化が年々著しく増しているため、市場新設計画に係る基本設計に向け取り進める。</p> <p>・ホタテ養殖漁業者と漁協は、漁獲物への細菌混入リスクの低減に努めるため、ホタテ貝の水揚げに際し殺菌海水を使用した貝殻洗浄に努めるとともに、運搬時には木柵に代えて、洗浄が容易で衛生面で優れているプラスチックコンテナを順次導入する。このことによって、品質、鮮度保持、衛生管理の向上に取組み、東南アジア向け輸出の拡大や付加価値向上を図る。加えて、徹底した選別による出荷サイズの統一化にも努める。</p> <p>また、ヨーロッパザラボヤの異常付着による養殖ホタテ貝の生育阻害、貝の脱落を減少させるため、必要な機器を順次導入し可能な限り徹底した駆除に努めるとともに、近年問題となっている稚貝の育成不良、成貝の斃死の原因を関係機関と協力し原因究明に努め、生産量の回復を目指す。</p> <p>さらに、鹿部町は、鹿部町漁業系廃棄物リサイクル施設において行っている廃棄物の適正な処理と肥料としての製造について、ヨーロッパザラボヤの大量付着により施設での処理が間に合わない状況となっていることから、ザラボヤの処理量を増大できるよう、今後の施設の拡張整備などについて協議する。</p> <p>・漁協は地産地消やブランド化、漁獲物の高鮮度出荷のため、地元道の駅の浜のかあさん食堂での料理の提供やイベントでの地元食材を使った料理の無料配布や鮮魚販売を実施する。</p> <p>・刺網漁業、定置網漁業者と漁協は、北海道栽培漁業振興公社や関係漁業者等で構成される「えりも以西栽培漁業推進協議会」の協力を得て、マツカワ種苗25,000尾を放流し、資源の増大を図る。加えて、マツカワ、サケ、マグロ、ブリ、スケトウダラなどを対象に、プラスチックコンテナの活用による殺菌海水を使用した海水氷による出荷までの低温管理（5℃以下）の徹底と衛生的な流通体制の構築を協議する。</p> <p>また漁協は、活〆販売拡大のため、関係漁業者への活〆講習会を開催するほか、上記取組みなどの推進のため、漁業者へ氷を安定供給ができるよう、使用する氷の種類や必要量などの調査を行い、必要に応じて製氷機の整備を検討する。関係漁業者は、漁船への氷の供給方法を統一し、鮮度の均一化に取り組むとともに、タコ漁業者を含め、消費地販売店等からの需要に応</p>
---------------------	--

	<p>じ、活魚水槽を活用した活保管や消費地のニーズに合わせた出荷調整等の販売体制の充実させることで、地域水産物の信頼性や品質の向上、安定供給の推進を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採介藻漁業者、刺網漁業、桁網漁業者と漁協は、鹿部町とともに、コンブ、ソイ類、アイナメなどの水産資源の生産力の向上や保護などを目的に囲い礁を設置し、水産資源の維持増大に努め、水産技術普及指導所等の協力を得て、囲い礁の最適構造や設置場所の適地選定などについて検討し水産資源の早期回復を目指す。また、採介藻漁業者は、漁協及び鹿部町と連携し、コンブ漁場の繁茂状況や環境状況などについてモニタリングを行い、その結果を基に必要に応じ、岩盤清掃による雑海藻駆除や転石、鉄鋼スラグによる腐植酸鉄等の供給及び囲い礁・漁礁や立て縄礁の設置により、コンブ資源の増大に努める。 ・採介藻漁業、桁網漁業者と漁協は、鹿部町、北海道庁、水産技術普及指導所、水産試験場等の協力を得て、ナマコ種苗生産技術の取得に努めナマコの種苗生産と放流を実施するとともに、放流区域の一部をナマコの産卵育成場として、一定期間採捕禁止区域に設定することで資源の維持増大を図る。また、ナマコ種苗を中間育成場に放流し、追跡調査を行うことで成長や生残、拡散状況などを把握し、放流効果の検証を行い、放流技術と中間育成技術の向上に努める。そして、ナマコ・コンブ種苗の安定生産と効率化の向上を図る為、新たな種苗生産施設の整備の計画について協議を行う。 ・コンブ養殖漁業者は、漁協および水産技術普及指導所と連携し、沖出し後のコンブ種苗が適正に成長できるよう、これまで個々の経験により取り組んできた間引きや浮上作業について、共同で知見を収集し、マニュアル化を図るとともに、対策を徹底することで、コンブの品質向上および増産に取り組む。 ・当該漁業協同組合も加入している噴火湾ホタテ生産振興協議会が計画する漁場環境保全対策の実施とへい死対策として漁場観測ブイを全域に設置し、噴火湾湾口からの影響や湾内の海洋環境の変化を観測し、これにより得られた情報を漁業者に提供する。ホタテ養殖漁業者はそのデータを元に漁業者が漁場環境保全を図り、より高度な養殖管理を行い、へい死率を低減させるとともに、漁協と連携し、生産量と漁家経営の安定化を図るための計画を立案する。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、漁獲共済・積立ぶらす・漁業セーフティネット構築事業の周知により加入促進を図る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、減速航行の徹底や定期的な船底清掃及び舵・プロペラなどを洗淨・研磨し、付着生物防止処理を実施することにより燃油消費量の削減を図る。 ・全漁業者は、必要に応じ省エネ機器等導入推進事業を活用し、省エネ型コンブ乾燥機及び船内機・船外機の導入により、燃油使用量の削減を図る。 ・コンブ養殖漁業、ホタテ養殖漁業は、出荷作業時における共同化及び協業化を推進し、漁業経費の削減に努める。 ・漁協及び全漁業者は、鹿部町の協力を受け海水温観測ブイの設置整備を行い、海水温・潮の流向・流速・波高データの配信を受け、事前に操業の判断が可能となり、無駄な出漁を抑えることと、船上での作業効率を高めることにより、漁業経費の削減を図る。 ・関係漁業者及び漁協は各漁港が航路などの土砂堆積による漁業作業の非効率化や波浪による港内の静穏性が十分に保たれないなど、漁船の損傷による経費が掛かるため、港内・航路の浚渫を北海道へ要望するとともに、機能保全が図られた漁港を有効活用し、漁業者自らも潮位変化に影響されない効率的な操業体制を組むことで燃油の消費を抑え経費の節減に努める。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町内居住者の漁業後継者で、北海道立漁業研修所に入所が認められた者に対し、鹿部町より就学助成金を交付し、漁業後継者としての定着促進を図る。 また、漁業後継者対策の充実を図り漁業後継者の加入促進を図る。 ・町のHPやSNS等を活用して漁業をPRするとともに、就業体験研修を開催し、新規就業者の確保に努める。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>有害生物漁業被害防止総合対策事業（国） 北海道地域づくり総合交付金（道） 漁業経営セーフティネット構築事業（国） 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国） 競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） 水産基盤整備事業（国） 鹿部町沿岸漁業振興対策事業（町）</p>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>・漁協と全漁業者は、鹿部漁港における衛生管理の強化のため、鹿部町水産物衛生管理推進委員会と連携し、鹿部漁港市場衛生品質管理マニュアルを定め作業動線の輻輳化を排除することで水産物の細菌リスクの低減を図るとともに、市場関係者の衛生意識の向上を図るため、衛生品質管理講習会を開催する。また、市場施設内の床面や排水溝などグレーチング等の改修整備を検討し、加えて市場施設の老朽化が年々著しく増しているため、市場新設計画に係る実施設計を作成する。</p> <p>・ホタテ養殖漁業者と漁協は、漁獲物への細菌混入リスクの低減に努めるため、ホタテ貝の水揚げに際し殺菌海水を使用した貝殻洗浄に努めるとともに、運搬時には木柵に代えて、洗浄が容易で衛生面で優れているプラスチックコンテナを順次導入する。このことによって、品質、鮮度保持、衛生管理の向上に取組み、東南アジア向け輸出の拡大や付加価値向上を図る。加えて、徹底した選別による出荷サイズの統一化にも努める。</p> <p>また、ヨーロッパザラボヤの異常付着による養殖ホタテ貝の生育阻害、貝の脱落を減少させるため、必要な機器を順次導入し可能な限り徹底した駆除に努めるとともに、近年問題となっている稚貝の育成不良、成貝の斃死の原因を関係機関と協力し原因究明に努め、生産量の回復を目指す。</p> <p>さらに、鹿部町は、鹿部町漁業系廃棄物リサイクル施設において行っている廃棄物の適正な処理と肥料としての製造について、ヨーロッパザラボヤの大量付着により施設での処理が間に合わない状況となっていることから、ザラボヤの処理量を増大できるよう、今後の施設の拡張整備などについての基本設計を行う。</p> <p>・漁協は地産地消やブランド化、漁獲物の高鮮度出荷のため、地元道の駅の浜のかあさん食堂での料理の提供やイベントでの地元食材を使った料理の無料配布や鮮魚販売を実施する。</p> <p>・刺網漁業、定置網漁業者と漁協は、北海道栽培漁業振興公社や関係漁業者等で構成される「えりも以西栽培漁業推進協議会」の協力を得て、マツカワ種苗25,000尾を放流し、資源の増大を図る。加えて、マツカワ、サケ、マグロ、ブリ、スケトウダラなどを対象に、プラスチックコンテナの活用による殺菌海水を使用した海水氷による出荷までの低温管理（5℃以下）の徹底と衛生的な流通体制の体制を構築する。</p> <p>また漁協は、活〆販売拡大のため、関係漁業者への活〆講習会を開催するほか、上記取組みなどの推進のため、漁業者へ氷を安定供給ができるよう、使用する氷の種類や必要量などの調査を行い、必要に応じて製氷機の整備を検討する。関係漁業者は、漁船への氷の供給方法を統一し、鮮度の均一化に取り組むとともに、タコ漁業者を含め、消費地販売店等からの需要に応</p>
---------------------	---

	<p>じ、活魚水槽を活用した活保管や消費地のニーズに合わせた出荷調整等の販売体制の充実させることで、地域水産物の信頼性や品質の向上、安定供給の推進を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採介藻漁業者、刺網漁業、桁網漁業者と漁協は、鹿部町とともにコンブ、ソイ類、アイナメなどの水産資源の生産力の向上や保護などを目的に囲い礁を設置し、水産資源の維持増大に努め、水産技術普及指導所等の協力を得て、囲い礁の最適構造や設置場所の適地選定などについて検討し水産資源の早期回復を目指す。また、採介藻漁業者は、漁協及び鹿部町と連携し、コンブ漁場の繁茂状況や環境状況などについてモニタリングを行い、その結果を基に必要に応じ、岩盤清掃による雑海藻駆除や転石、鉄鋼スラグによる腐植酸鉄等の供給及び囲い礁・漁礁や立て縄礁の設置により、コンブ資源の増大に努める。 ・採介藻漁業、桁網漁業者と漁協は、鹿部町、北海道庁、水産技術普及指導所、水産試験場等の協力を得て、ナマコ種苗生産技術の取得に努めナマコの種苗生産と放流を実施するとともに、放流区域の一部をナマコの産卵育成場として、一定期間採捕禁止区域に設定することで資源の維持増大を図る。また、ナマコ種苗を中間育成場に放流し、追跡調査を行うことで成長や生残、拡散状況などを把握し、放流効果の検証を行い、放流技術と中間育成技術の向上に努める。そして、ナマコ・コンブ種苗の安定生産と効率化の向上を図る為、新たな種苗生産施設の整備の計画策定を行う。 ・コンブ養殖漁業者は、漁協および水産技術普及指導所と連携し、沖出し後のコンブ種苗が適正に成長できるよう、これまで個々の経験により取り組んできた間引きや浮上作業について、共同で知見を収集し、マニュアル化を図るとともに、対策を徹底することで、コンブの品質向上および増産に取り組む。 ・当該漁業協同組合も加入している噴火湾ホタテ生産振興協議会が計画する漁場環境保全対策の実施とへい死対策として漁場観測ブイを全域に設置し、噴火湾湾口からの影響や湾内の海洋環境の変化を観測し、これにより得られた情報を漁業者に提供する。ホタテ養殖漁業者はそのデータを元に漁業者が漁場環境保全を図り、より高度な養殖管理を行い、へい死率を低減させるとともに、漁協と連携し、生産量と漁家経営の安定化を図るための計画を実行する。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、漁獲共済・積立ぶらす・漁業セーフティネット構築事業の周知により加入促進を図る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、減速航行の徹底や定期的な船底清掃及び舵・プロペラなどを洗淨・研磨し、付着生物防止処理を実施することにより燃油消費量の削減を図る。 ・全漁業者は、必要に応じ省エネ機器等導入推進事業を活用し、省エネ型コンブ乾燥機及び船内機・船外機の導入により、燃油使用量の削減を図る。 ・コンブ養殖漁業、ホタテ養殖漁業は、出荷作業時における共同化及び協業化を推進し、漁業経費の削減に努める。 ・漁協及び全漁業者は、鹿部町の協力を受け海水温観測ブイの設置整備を行い、海水温・潮の流向・流速・波高データの配信を受け、事前に操業の判断が可能となり、無駄な出漁を抑えることと、船上での作業効率を高めることにより、漁業経費の削減を図る。 ・関係漁業者及び漁協は各漁港が航路などの土砂堆積による漁業作業の非効率化や波浪による港内の静穏性が十分に保たれないなど、漁船の損傷による経費が掛かるため、港内・航路の浚渫を北海道へ要望するとともに、機能保全が図られた漁港を有効活用し、漁業者自らも潮位変化に影響されない効率的な操業体制を組むことで燃油の消費を抑え経費の節減に努める。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町内居住者の漁業後継者で、北海道立漁業研修所に入所が認められた者に対し、鹿部町より就学助成金を交付し、漁業後継者としての定着促進を図る。 また、漁業後継者対策の充実を図り漁業後継者の加入促進を図る。 ・町のHPやSNS等を活用して漁業をPRするとともに、就業体験研修を開催し、新規就業者の確保に努める。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産業強化支援事業（国） 有害生物漁業被害防止総合対策事業（国） 北海道地域づくり総合交付金（道） 漁業経営セーフティネット構築事業（国） 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国） 競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） 水産基盤整備事業（国） 鹿部町沿岸漁業振興対策事業（町）</p>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁協と全漁業者は、鹿部漁港における衛生管理の強化のため、鹿部町水産物衛生管理推進委員会と連携し、鹿部漁港市場衛生品質管理マニュアルを定め作業動線の輻輳化を排除することで水産物の細菌リスクの低減を図るとともに、市場関係者の衛生意識の向上を図るため、衛生品質管理講習会を開催する。また、市場施設内の床面や排水溝などグレーチング等の改修整備を検討し、加えて市場施設の老朽化が年々著しく増しているため、実施設計を基に市場を新設する。加えて水産物の鮮度維持を目的に天蓋施設の整備検討も併せて計画する。 ・ホタテ養殖漁業者と漁協は、漁獲物への細菌混入リスクの低減に努めるため、ホタテ貝の水揚げに際し殺菌海水を使用した貝殻洗浄に努めるとともに、運搬時には木柵に代えて、洗浄が容易で衛生面で優れているプラスチックコンテナを順次導入する。このことによって、品質、鮮度保持、衛生管理の向上に取組み、東南アジア向け輸出の拡大や付加価値向上を図る。加えて、徹底した選別による出荷サイズの統一化にも努める。 また、ヨーロッパザラボヤの異常付着による養殖ホタテ貝の生育阻害、貝の脱落を減少させるため、必要な機器を順次導入し可能な限り徹底した駆除に努めるとともに、近年問題となっている稚貝の育成不良、成貝の斃死の原因を関係機関と協力し原因究明に努め、生産量の回復を目指す。 さらに、鹿部町は、鹿部町漁業系廃棄物リサイクル施設において行っている廃棄物の適正な処理と肥料としての製造について、ヨーロッパザラボヤの大量付着により施設での処理が間に合わない状況となっていることから、ザラボヤの処理量を増大できるよう、今後の施設の拡張整備などについて実施設計を行う。 ・漁協は地産地消やブランド化、漁獲物の高鮮度出荷のため、地元道の駅の浜のかあさん食堂での料理の提供やイベントでの地元食材を使った料理の無料配布や鮮魚販売を実施する。 ・刺網漁業、定置網漁業者と漁協は、北海道栽培漁業振興公社や関係漁業者等で構成される「えりも以西栽培漁業推進協議会」の協力を得て、マツカワ種苗25,000尾を放流し、資源の増大を図る。加えて、マツカワ、サケ、マグロ、ブリ、スケトウダラなどを対象に、プラスチックコンテナの活用による殺菌海水を使用した海水氷による出荷までの低温管理（5℃以下）の徹底と衛生的な流通体制を構築する。 また漁協は、活〆販売拡大のため、関係漁業者への活〆講習会を開催するほか、上記取組みなどの推進のため、漁業者へ氷を安定供給ができるよう、使用する氷の種類や必要量などの調査を行い、必要に応じて製氷機の整備を検討する。関係漁業者は、漁船への氷の供給方法などを統一し、鮮度の均一
---------------------	---

	<p>化に取り組むとともに、タコ漁業者を含め、消費地販売店等からの需要に応じ、活魚水槽を活用した活保管や消費地のニーズに合わせた出荷調整等の販売体制の充実させることで、地域水産物の信頼性や品質の向上、安定供給の推進を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採介藻漁業者、刺網漁業、桁網漁業者と漁協は、鹿部町とともに、コンブ、ソイ類、アイナメなどの水産資源の生産力の向上や保護などを目的に囲い礁を設置し、水産資源の維持増大に努め、水産技術普及指導所等の協力を得て、囲い礁の最適構造や設置場所の適地選定などについて検討し水産資源の早期回復を目指す。また、採介藻漁業者は、漁協及び鹿部町と連携し、コンブ漁場の繁茂状況や環境状況などについてモニタリングを行い、その結果を基に必要に応じ、岩盤清掃による雑海藻駆除や転石、鉄鋼スラグによる腐植酸鉄等の供給及び囲い礁・漁礁や立て縄礁の設置により、コンブ資源の増大に努める。 ・採介藻漁業、桁網漁業者と漁協は、鹿部町、北海道庁、水産技術普及指導所、水産試験場等の協力を得て、ナマコ種苗生産技術の取得に努めナマコの種苗生産と放流を実施するとともに、放流区域の一部をナマコの産卵育成場として、一定期間採捕禁止区域に設定することで資源の維持増大を図る。また、ナマコ種苗を中間育成場に放流し、追跡調査を行うことで成長や生残、拡散状況などを把握し、放流効果の検証を行い、放流技術と中間育成技術の向上に努める。そして、ナマコ・コンブ種苗の安定生産と効率化の向上を図る為、新たな種苗生産施設の整備の基本設計を行う。 ・コンブ養殖漁業者は、漁協および水産技術普及指導所と連携し、沖出し後のコンブ種苗が適正に成長できるよう、これまで個々の経験により取り組んできた間引きや浮上作業について、共同で知見を収集し、マニュアル化を図るとともに、対策を徹底することで、コンブの品質向上および増産に取り組む。 ・当該漁業協同組合も加入している噴火湾ホタテ生産振興協議会が計画する漁場環境保全対策の実施とへい死対策として漁場観測ブイを全域に設置し、噴火湾湾口からの影響や湾内の海洋環境の変化を観測し、これにより得られた情報を漁業者に提供する。ホタテ養殖漁業者はそのデータを元に漁業者が漁場環境保全を図り、より高度な養殖管理を行い、へい死率を低減させるとともに、漁協と連携し、生産量と漁家経営の安定化を図るための計画を実行する。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>・漁協は、漁獲共済・積立ぶらす・漁業セーフティネット構築事業の周知により加入促進を図る。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、減速航行の徹底や定期的な船底清掃及び舵・プロペラなどを洗浄・研磨し、付着生物防止処理を実施することにより燃油消費量の削減を図る。 ・全漁業者は、必要に応じ省エネ機器等導入推進事業を活用し、省エネ型コンブ乾燥機及び船内機・船外機の導入により、燃油使用量の削減を図る。 ・コンブ養殖漁業、ホタテ養殖漁業は、出荷作業時における共同化及び協業化を推進し、漁業経費の削減に努める。 ・漁協及び全漁業者は、鹿部町の協力を受け海水温観測ブイの設置整備を行い、海水温・潮の流向・流速・波高データの配信を受け、事前に操業の判断が可能となり、無駄な出漁を抑えることと、船上での作業効率を高めることにより、漁業経費の削減を図る。 ・関係漁業者及び漁協は各漁港が航路などの土砂堆積による漁業作業の非効率化や波浪による港内の静穏性が十分に保たれないなど、漁船の損傷による経費が掛かるため、港内・航路の浚渫を北海道へ要望するとともに、機能保全が図られた漁港を有効活用し、漁業者自らも潮位変化に影響されない効率的な操業体制を組むことで燃油の消費を抑え経費の節減に努める。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町内居住者の漁業後継者で、北海道立漁業研修所に入所が認められた者に対し、鹿部町より就学助成金を交付し、漁業後継者としての定着促進を図る。 また、漁業後継者対策の充実を図り漁業後継者の加入促進を図る。 ・町のHPやSNS等を活用して漁業をPRするとともに、就業体験研修を開催し、新規就業者の確保に努める。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産業強化支援事業（国） 有害生物漁業被害防止総合対策事業（国） 北海道地域づくり総合交付金（道） 漁業経営セーフティネット構築事業（国） 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国） 競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） 水産基盤整備事業（国） 鹿部町沿岸漁業振興対策事業（町）</p>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>・漁協と全漁業者は、鹿部漁港における衛生管理の強化のため、鹿部町水産物衛生管理推進委員会と連携し、鹿部漁港市場衛生品質管理マニュアルを定め作業動線の輻輳化を排除することで水産物の細菌リスクの低減を図るとともに、市場関係者の衛生意識の向上を図るため、衛生品質管理講習会を開催する。また、市場施設内の床面や排水溝などグレーチング等の改修整備を検討する。また、令和9年度に新設した市場を活用し、衛生管理を徹底し単価向上につなげる。また、水産物の鮮度維持を目的に天蓋施設の整備検討も併せて計画について引き続き取り進める。</p> <p>・ホタテ養殖漁業者と漁協は、漁獲物への細菌混入リスクの低減に努めるため、ホタテ貝の水揚げに際し殺菌海水を使用した貝殻洗浄に努めるとともに、運搬時には木柵に代えて、洗浄が容易で衛生面で優れているプラスチックコンテナを順次導入する。このことによって、品質、鮮度保持、衛生管理の向上に取組み、東南アジア向け輸出の拡大や付加価値向上を図る。加えて、徹底した選別による出荷サイズの統一化にも努める。</p> <p>また、ヨーロッパザラボヤの異常付着による養殖ホタテ貝の生育阻害、貝の脱落を減少させるため、必要な機器を順次導入し可能な限り徹底した駆除に努めるとともに、近年問題となっている稚貝の育成不良、成貝の斃死の原因を関係機関と協力し原因究明に努め、生産量の回復を目指す。</p> <p>さらに、鹿部町は、鹿部町漁業系廃棄物リサイクル施設において行っている廃棄物の適正な処理と肥料としての製造について、ヨーロッパザラボヤの大量付着により施設での処理が間に合わない状況となっていることから、ザラボヤの処理量を増大できるよう、施設の拡張整備を行う。</p> <p>・漁協は地産地消やブランド化、漁獲物の高鮮度出荷のため、地元道の駅の浜のかあさん食堂での料理の提供やイベントでの地元食材を使った料理の無料配布や鮮魚販売を実施する。</p> <p>・刺網漁業、定置網漁業者と漁協は、北海道栽培漁業振興公社や関係漁業者等で構成される「えりも以西栽培漁業推進協議会」の協力を得て、マツカワ種苗25,000尾を放流し、資源の増大を図る。加えて、マツカワ、サケ、マグロ、ブリ、スケトウダラなどを対象に、プラスチックコンテナの活用による殺菌海水を使用した海水氷による出荷までの低温管理（5℃以下）の徹底と衛生的な流通体制を評価する。</p> <p>また漁協は、活〆販売拡大のため、関係漁業者への活〆講習会を開催するほか、上記取組みなどの推進のため、漁業者へ氷を安定供給ができるよう、使用する氷の種類や必要量などの調査を行い、必要に応じて製氷機の整備を検討する。関係漁業者は、漁船への氷の供給方法などを統一し、鮮度の均一化に取り組むとともに、タコ漁業者を含め、消費地販売店等からの需要に応</p>
---------------------	---

	<p>じ、活魚水槽を活用した活保管や消費地のニーズに合わせた出荷調整等の販売体制の充実させることで、地域水産物の信頼性や品質の向上、安定供給の推進を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採介藻漁業者、刺網漁業、桁網漁業者と漁協は、鹿部町とともに、コンブ、ソイ類、アイナメなどの水産資源の生産力の向上や保護などを目的に囲い礁を設置し、水産資源の維持増大に努め、水産技術普及指導所等の協力を得て、囲い礁の最適構造や設置場所の適地選定などについて検討し水産資源の早期回復を目指す。また、採介藻漁業者は、漁協及び鹿部町と連携し、コンブ漁場の繁茂状況や環境状況などについてモニタリングを行い、その結果を基に必要に応じ、岩盤清掃による雑海藻駆除や転石、鉄鋼スラグによる腐植酸鉄等の供給及び囲い礁・漁礁や立て縄礁の設置により、コンブ資源の増大に努める。 ・採介藻漁業、桁網漁業者と漁協は、鹿部町、北海道庁、水産技術普及指導所、水産試験場等の協力を得て、ナマコ種苗生産技術の取得に努めナマコの種苗生産と放流を実施するとともに、放流区域の一部をナマコの産卵育成場として、一定期間採捕禁止区域に設定することで資源の維持増大を図る。また、ナマコ種苗を中間育成場に放流し、追跡調査を行うことで成長や生残、拡散状況などを把握し、放流効果の検証を行い、放流技術と中間育成技術の向上に努める。そして、ナマコ・コンブ種苗の安定生産と効率化の向上を図る為、新たな種苗生産施設の整備の実施設計を行う。 ・コンブ養殖漁業者は、漁協および水産技術普及指導所と連携し、沖出し後のコンブ種苗が適正に成長できるよう、これまで個々の経験により取り組んできた間引きや浮上作業について、共同で知見を収集し、マニュアル化を図るとともに、対策を徹底することで、コンブの品質向上および増産に取り組む。 ・当該漁業協同組合も加入している噴火湾ホタテ生産振興協議会が計画する漁場環境保全対策の実施とへい死対策として漁場観測ブイを全域に設置し、噴火湾湾口からの影響や湾内の海洋環境の変化を観測し、これにより得られた情報を漁業者に提供する。ホタテ養殖漁業者はそのデータを元に漁業者が漁場環境保全を図り、より高度な養殖管理を行い、へい死率を低減させるとともに、漁協と連携し、生産量と漁家経営の安定化を図るための計画を評価する。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、漁獲共済・積立ぶらす・漁業セーフティネット構築事業の周知により加入促進を図る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、減速航行の徹底や定期的な船底清掃及び舵・プロペラなどを洗淨・研磨し、付着生物防止処理を実施することにより燃油消費量の削減を図る。 ・全漁業者は、必要に応じ省エネ機器等導入推進事業を活用し、省エネ型コンブ乾燥機及び船内機・船外機の導入により、燃油使用量の削減を図る。 ・コンブ養殖漁業、ホタテ養殖漁業は、出荷作業時における共同化及び協業化を推進し、漁業経費の削減に努める。 ・漁協及び全漁業者は、鹿部町の協力を受け海水温観測ブイの設置整備を行い、海水温・潮の流向・流速・波高データの配信を受け、事前に操業の判断が可能となり、無駄な出漁を抑えることと、船上での作業効率を高めることにより、漁業経費の削減を図る。 ・関係漁業者及び漁協は各漁港が航路などの土砂堆積による漁業作業の非効率化や波浪による港内の静穏性が十分に保たれないなど、漁船の損傷による経費が掛かるため、港内・航路の浚渫を北海道へ要望するとともに、機能保全が図られた漁港を有効活用し、漁業者自らも潮位変化に影響されない効率的な操業体制を組むことで燃油の消費を抑え経費の節減に努める。
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町内居住者の漁業後継者で、北海道立漁業研修所に入所が認められた者に対し、鹿部町より就学助成金を交付し、漁業後継者としての定着促進を図る。 また、漁業後継者対策の充実を図り漁業後継者の加入促進を図る。 ・町のHPやSNS等を活用して漁業をPRするとともに、就業体験研修を開催し、新規就業者の確保に努める。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>有害生物漁業被害防止総合対策事業（国） 北海道地域づくり総合交付金（道） 漁業経営セーフティネット構築事業（国） 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国） 競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） 水産基盤整備事業（国） 農村漁村振興交付金（国） 鹿部町沿岸漁業振興対策事業（町）</p>

(5) 関係機関との連携

取組の効果が高められるよう、構成員である鹿部町はもとより、漁協内部の各部会との連携を密にすると共に、オブザーバーである北海道、各系統団体への支援、協力を求めながらプランの取組を遂行する。

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

取組の評価分析については、年に1度構成員及びオブザーバーを招き検証を行い、次年度への修正点を洗い出す事とする。

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の向上10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

石カレイ、アイナメ、クロソイの高鮮度出荷割合の向上	基準年	令和4年度 : 3.7%
	目標年	令和10年度 : 13.7%
新規漁業就業者数の増加	基準年	平成30年度～令和4年度5年累計 新規漁業就業者数 7人
	目標年	令和6年度～令和10年度累計 新規漁業就業者数 10人

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>【所得目標のサブ使用：石カレイ、アイナメ、クロソイの高鮮度出荷割合の向上】</p> <p>基準年である令和4年度の平均活〆、活出货量が約3.7%であるため、活〆販売拡大のため、関係漁業者への活〆講習会を開催することで、活〆、活出货量の割合を10%向上し、魚価単価を向上させる。</p> <p>【漁村活性化の成果目標：新規漁業就業者数の増加】</p> <p>基準年である平成30年度～令和4年度5年累計が7人（平成30年度：2人、令和元年度：3人、令和2年度：1人、令和3年度：1人、令和4年度：0人）であるため、令和6年度以降は市のHPやSNS等を活用して漁業をPRするとともに、就業体験研修を開催することによる新規漁業就業者の確保を行い、累計10人（1年あたり2人）の就業者確保を図る</p>
--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
①有害生物漁業被害防止総合対策事業（国） ②北海道地域づくり総合交付金【道】	養殖ホタテ貝に異常付着したザラボヤの洋上駆除、陸上処理を進め、生育阻害や斃死を減少させ水揚量の増加、有害生物の根絶を目指す。
③漁業経営セーフティーネット構築事業（国）	燃油高騰による漁業経費の増加に備える。
④水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）	老朽化した漁船を新たな代船にする事により、省エネ性の向上と漁労作業の効率化を図る。
⑤競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）	省エネ機器や最新の漁労機器を導入し、省エネ性の向上と漁労作業の効率化を図る。
⑥水産業強化支援事業（国）	鹿部漁港の衛生管理のため漁港用地の整備
⑦農村漁村振興交付金（国）	近年増大しているヨーロッパザラボヤの処理にともない、リサイクル処理施設の保全整備を図る。
⑧水産基盤整備事業（国）	漁業生産活動の拠点となる漁港整備や漁場の整備を推進することにより、安全かつ効率的な操業の確保と水産物の資源増大を図る。
⑨鹿部町沿岸漁業振興対策事業（町）	海水温観測ブイの設置整備を行い、海水温・潮の流向・流速・波高データの配信を受け、事前に操業の判断が可能となり、無駄な出漁を抑えることと、船上での作業効率を高めることにより、漁業経費の削減を図る。